

「上手な絵」にはにかむ子

青陽東養護学校図工授業サポート

ボランティア最前線



灘区会

図工授業の準備をする中野さん、向崎さん、飯井さん（左から）

「上手だね。センスあるわ」一。図工の福田美和子先生に自分のちぎり絵をほめられた子は、はにかみながらも微笑み、ちょっぴり得意そう。クラスメートがいっせいに拍手します。

灘区会の青陽東養護学校サポートグループは、9月8日朝、同校小学部の図工授業の補助を行いました。飯井冨子さん（一般）、中野邦子さん（生16期）、向崎良男さん（生18期）の3人。授業の準備や、子どもたちに寄り添い、サポートし、教室の掃除や乱雑に散らかった机の上の後片付けをしました。

小学部低学年が終わった後、高学年の14人が授業を受けました。付き添う先生は9人。ふつうの子とほとんど変わらない子からヘッドギアを付けた子まで障害は様々。性格も1人1人違うので、サポートは大変です。

福田先生は「今から図工の勉強を始めます。いつものボランティアさんが、みなさんの世話をしてください。この人たちがいないと授業が成り立ちません。よろしくお願いします」とあいさつして授業開始。子供たちは、色も形も大きさも様々な折り紙型のシールや色紙を好きな形にちぎり、大型の台紙の上に、貼り付けます。はさみで切る子もいます。もう1つは手本の果物のナシを台紙に張り、クレパスで好きな色を塗

ります。福田先生にふざけて銀色のシールを張ったり、居眠りしてしまう子もいました。飯井さんらも子どもを見守り、やさしく声をかけながら、作品作りを手伝っています。

11時過ぎから40分の授業が終わる前、福田先生がこれだと思う作品を2、3枚選び、1枚ずつ、子どもたちに「〇〇さんが描きました」と紹介。「チャララー」と歓声が上がります。福田先生は「楽しんでワーとやった作品ほど面白い」と話していました。



飯井さんの話では、灘区会の図工授業サポートは平成21年10月から開始。養護学校からグループわ本部に要請があり、本部が灘区会につないで始まりまし。サポート登録者は36人。ローテーションを組み、毎週木曜日に平均3人が参加。特定の日に希望者が重なったり、逆に希望者が1人しかいないこともあり、調整に困ることがあるとか。子どもたちは純真で可愛く、心が温かくなる。ただ、ポスターカラーを使う授業などでは顔、手、服までいっぱい汚れる。後片付けの道具洗い、机や床の拭き掃除も大変とのことでした。このほか、同校の校外学習に付添うサポートも向崎さんが、月3〜4回参加されているそうです。

（文と写真 広報・永野知己）